

信州から「春」を追う

# 満開の梢が 風に揺れる 水辺の春景

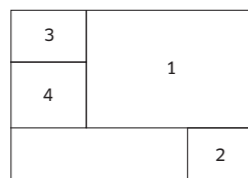


全長367km。長野から新潟を貫き、日本海へと注ぐ日本で一番長い川、信濃川。その名の通り信濃の国に端を発する。この川は、上流の長野県にさかのぼるとなぜか千曲川（ちくまがわ）と名前を変えてしまう。つまり信濃川とは、新潟県側の信濃川と長野県側の千曲川という名前を異にする一本の川の総称なのだ。したがって信濃の国に信濃川は存在しないことになる。そんな千曲川の春を探しに、長野市から飯山市方面へと向かった。

この季節の信州はりんごの花が満開だ。国道沿いに続く広大なりんご畑は、まるで白い絨毯を敷き詰めたように見える。やがて木々はたくさんの赤い実に覆われるのだろう。秋の撮影が今から楽しみになる。さらに、りんごの花と桜と桃が一度に咲き乱れているところもあった。これぞ桃源郷といった風情である。陽光の中、しばし車を停めて風景に見入る。

小布施町にさしかかったところで川岸に満開の桜を見つけた。今にも花弁がこぼれ落ちそうな、見事な満開だ。

ファインダーを覗くと、青空の下、草木は芽吹き、桜は堂々とした色で咲き誇っている。雪解けで水量を増した千曲川は、残雪の山並みをその水面に映している。雄大な信州の春に包まれて、シャッターを切った。



【写真1】長野市から国道117号を走らせ、小布施町で出会った満開の桜と千曲川。【写真2】千曲川の支流、裾花川（すそはながわ）。山間部に入ると新緑は一層濃くなり、草木の香りがとても心地よい。川辺に下りると雪解け水が美しい飛沫を上げていた。【写真3】小布施町で満開の桜を撮影した後、さらに飯山市へと北上した千曲川。【写真4】新緑の深谷を求めて、糸魚川市（いといがわし）より姫川の支流・小滝川（こたきがわ）へ向かった。小滝川は日本随一のヒスイの産地としても有名だ。対岸にはロッククライミングで人気のある明星山がある。

